

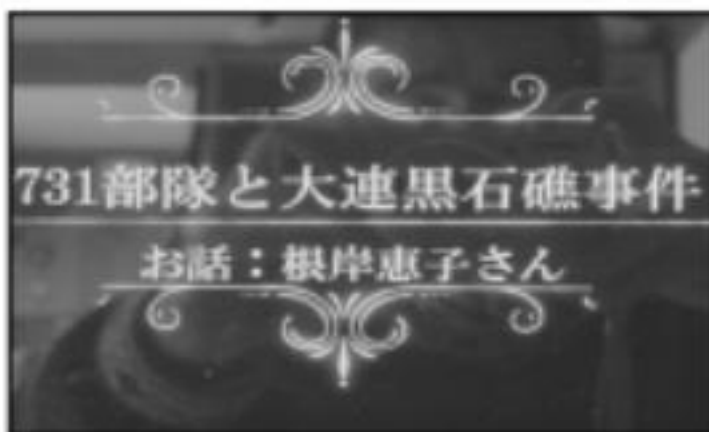
# 731通信

731部隊被害者遺族を支える会  
 連絡先 東京都新宿区新宿1-6-5  
 シガラキビル9F  
 ビーブルズ法律事務所内

## 大連黒石礁事件と731部隊 根岸恵子さんの講演

1月22日、連続学習会の3回目として「大連黒石礁事件と731部隊」と題して731ネットワークの根岸恵子さんのお話をオンラインでおこないました。

新型コロナウイルス感染症の広



がりのなか、11都府県に緊急事態宣言がだされるなかでの開催でしたが、全国から35名の参加がありました。

根岸さんのお話の概要です。

### 大連黒石礁

中国遼寧省大連の岩場の海岸にあります。今はリゾート地としてにぎわっています。戦前も星が丘公園に隣接する大連郊外の町でした。ここで1943年関東軍憲兵隊により、引き起こされたのが大連黒石礁事件です。

### 沈得龍

この事件のカギを握る人物が沈得龍です。彼は1910年生まれの朝



戦前の星が丘公園、右奥に黒石礁

鮮族で、朝鮮を日本が植民地にしたことに反対し、間島で義勇軍に参加します。1934年に義勇軍が解散され、その後モスクワに留学します。そこでソ連の教育を受け、帰国後大連で国際反帝情報組織の拠点づくりを命令され、活動します。

その後中国共産党とも連絡しあい、中共から派遣された人たちとともに活動します。

## 王耀軒

もう一人のこの「事件」の中心人物が王耀軒です。彼は奉天で袋物工場を経営していました。天津・北京にも事業を展開します。八路軍からの要請で、沈得龍の帰国の手助けをし、協力します。大連黒石礁に興亜写真館を開設し、沈を社員として雇うことにし、諜報活動に協力します。ここに中共から呉宝珍と李忠善が派遣されます。

## 憲兵隊の写真館突入

1942年秋ごろから憲兵隊は怪電波を探知します。発信元が大連だとつきとめ、1943年10月1日深夜憲兵隊は興亜写真館を急襲します。そこにいた沈得龍を逮捕します。当時憲兵隊はソ連のスパイは虐待せず、逆スパイとするため、優遇し、ごちそうなどをふるまいます。そこで、沈得龍は仲間の名前をしゃべってしまいます。その時名前がでたのが王耀軒さんでした。憲兵隊は天津の王耀軒さんが経営する織物工場の労働者の宿舎を襲い、その時屋根から滑り落ちてきて逮捕されたのが王耀軒さんです。

王耀軒さんは憲兵隊でひどい拷問を受けますが、口をわりませんでした。、逆スパイとして利用できないとされ1944年3月1日特急アジア号でハルビンまで連行され、そこで真っ黒な窓のない車にぶたのように放り込まれて731ぶたいに連行されたのです。

## 特移扱

特殊移送という制度がつけられました。1932年石井四郎が脊陰河で防疫特殊機関を設立し、人体実験を始めます。捕まえた「被検者」が34年になって12認にげだします。この話をカナダ・ケベックのラッケルが実話ほ描いています。この話は日本では出版されていません。1936年にハルピンの平房に731部隊がつけられ、実験材料とする人員が必要になりました。そこで「特殊移送」ということを思いつきます。石井四郎が発案し、参謀長の東條英樹、憲兵司令官の田中静一、関東軍司令官の植田謙吉が関与して決定されます。「利用価値なき逮捕者」を裁判なしで、731に送ることができるようにしたのです。親ソ・反日のものを対象としました。だれでも対象者になりえたのです。

## 三尾豊

ここで日本側の重要人物についてふれます。三尾豊さんは1913

年岐阜県で生まれます。1934年に岐阜68連隊にはいり、36年憲兵試験に受かり、憲兵となります。1941年4月大連憲兵隊に移り、大連黒石礁事件に遭遇します。沈得龍や王耀軒を逮捕したのは、三尾さんでした。王耀軒さんに拷問をしたのも、特急アジア号でハルピンまで引率したのも三尾さんです。三尾さんは45年の敗戦後シベリアに抑留され、50年に不純の戦犯管理署に移管されます。そこで、中国側の優遇措置のなか、罪を認め、56年起訴猶予で帰国します。

## 王亦兵

1931年1月王耀軒さんの次男として生まれます。12歳の時、父が連行され、その後お父さんのことはわかりません。貧しい生活の中ですごしました。中国が解放されたあと、1959年に長春公安局からの連絡で、731にれんこうされ、殺害された、と連絡がありました。

1995年になって、日本政府を相



手に裁判を始めます。

そのなかで三尾さんが裁判で証言します。「自分が拷問し、ハルビンに連行したこと、そして、731で殺した責任がある」と発言、王亦兵さんに謝罪します。しかし、王さんは受け入れません。その後三尾さんは中国に行き王亦兵さんに会い、謝罪を続けます。しかし、それでも王さんは受け入れません。その後97年に来日した時に三尾さんの謝罪を始めて受け入れます。

### 講演後の討議で

このような根岸さんの話に続いて参加者からの発言がありました。弁護士の南典男さんから、王亦兵さんらが原告となった裁判の一審の判決について発言がありました。この判決では、731部隊の人体実験の事実認定はありました。しかし、国の責任は認めませんでした。その理由が、個人の賠償請求権を認めてしまうと、報復のくりかえしになり、未来の戦争を招く、

というものでした。その後2007年に最高裁が「請求権放棄論」で国の責任なしの判決を書きますが、その前提となるような判決を1999年に書いていたということです。

また、岐阜の今井さんから「許し」についての発言がありました。三尾さんと王亦兵さんの仲介をしたのは、撫順戦犯管理所の金源先生ですが、戦犯管理所での三尾さんの認罪がこのことを可能にしています。ある憲兵が、戦後の中国で書いた「戦犯供述書」には、

「大連黒石礁事件で731部隊に送ったのが4名で、その他の事件で731部隊に送ったのが14名、戦時中（憲兵になる前も含む）に、中国人殺害にかかわった数（731部隊に送った人も含む）は合計で69名であった」とあります。

今井さんはまた、日本軍の兵士が平気で中国人を殺したのは、兵隊に招集され初年兵教育3ヶ月の後には銃剣刺突訓練をしたことが挙げられます。日本軍はどこでも

やっていたのです。その前に学校では竹槍訓練もしていました。しぼりつけて刺し殺すということが当たり前になっていたのです。軍人教育の在り方の問題です。初年兵教育の刺突訓練の問題があります。中国人に対する残虐行為は当

然だったのです、と発言しました。

また、撫順戦犯管理所で反省した人の考えが日本の主流になっていないで、今もコロナ罹患者を罪悪し、罰則を設けるなどしているなどの状況はひどいものだ、という発言もありました。

中国人戦争被害賠償請求事件弁護団編著

## JUSTICE (正義)

ご購入と普及にご協力を

731部隊事件・南京虐殺事件・平頂山事件・強制連行事件・「慰安婦」事件・遺棄毒ガス被害事件など日本軍が中国で行った残虐行為の被害者とその遺族が日本政府と加害企業に対しておこなった裁判を担当した弁護士が、被害者との交流、裁判の経過などをまとめた本を出版しました。

裁判終了後も被害者の要求実現のために弁護団は解散せずに活動しています。

この本は高文研刊で定価は2,750円（税込み）ですが、当ネットワークに申し込みいただければ税込み2,400円でお分けいたします。下記にお申し込みください。

exhibition731@yahoo.co.jp



今回の学習会は、731被害者遺族が裁判をおこし、これを支えた日本の市民運動の中で、被害者遺族とも交流し、その事実を日本国内に広めていった市民運動を紹介します。そのなかで、提訴に至らなかった被害者遺族との交流も生まれます。これらの遺族を訪ねてのさまざまな人たちが731部隊に連行されて殺され、その遺族の人生を狂わせていくことを知ります。こんなことを紹介したいと思います。

#### 第4回講演会

## 731部隊被害者遺族 を支援する市民運動

日時：2021年3月22日（金）18時半～

場所：オンライン

講師：大谷 猛夫さん

（731ネットワーク）

要予約：

コロナの状況を考慮し、次回もオンラインでおこないます。参加は下記アドレスで申し込んでください。

exhibition731@yahoo.co.jp